

# 下北半島のサル

2020年度（令和2年度）

調査報告書



NPO法人  
ニホンザル・フィールドステーション

令和2年度

天然記念物生息調査

むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

調査報告書

令和3年5月

特定非営利活動法人 ニホンザル・フィールドステーション

令和2年度 天然記念物生息調査  
むつ市に生息するニホンザルの生息実態調査

目 次

I	調査の概要	
1	調査目的	1
2	調査地域	1
3	調査内容	2
4	調査並びに調査結果への取り組み方	2
II	調査結果	
1	脇野沢・川内地区	4
2	大畑・薬研地区	14
3	補足調査結果	25
4	まとめ	26
III	資料	
	群れの写真	35

表紙写真

I2-A2 群 A♂(右)と A♀(左)

2020-11-16

木野部峠 ハーモニー橋

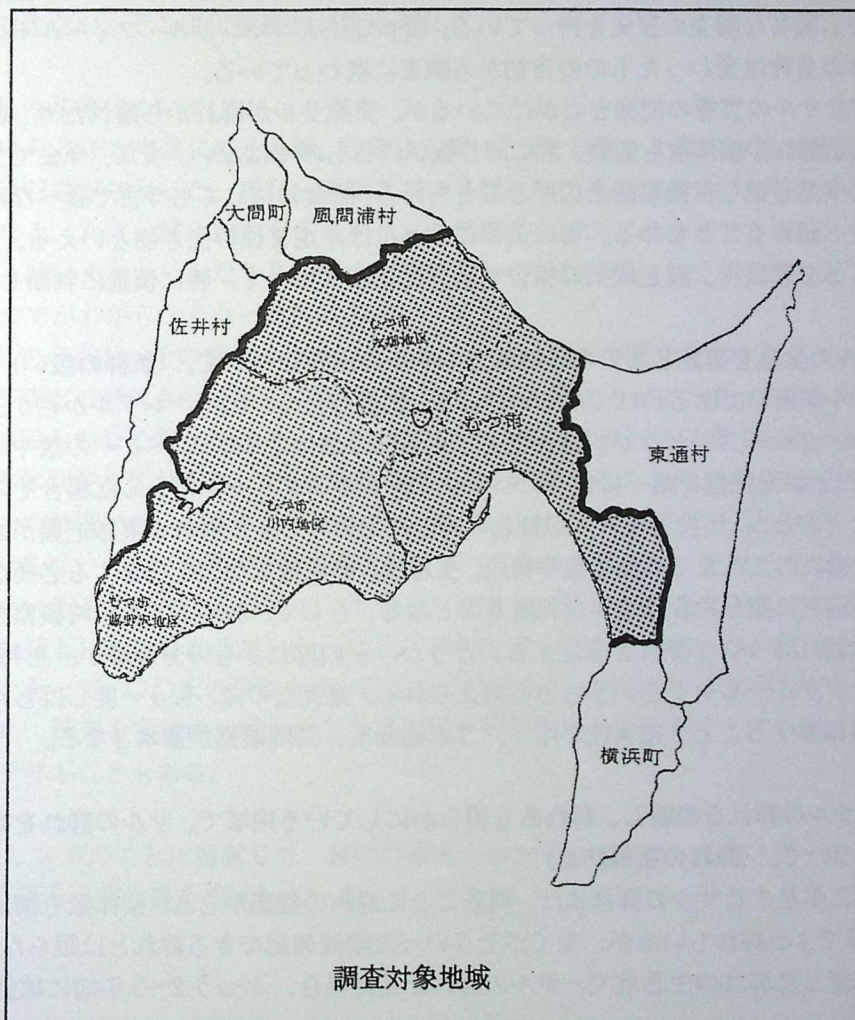
# I 調査の概要

## 1. 調査目的

本天然記念物生息調査は、むつ市及び下北半島に生息するニホンザルの個体数・群れ数の増加等により、農作物の食害のみならず、集落地等への定着が進み、地域住民とニホンザルとの軋轢が生じていること、それに、青森県が策定する第二次第二種特定鳥獣管理計画では、モニタリング調査結果を踏まえ、保護対策、生息実態に即した捕獲数などの実施計画を各市町村で作成することとなっていることから、地域住民とニホンザルの共生対策に必要な情報を得ることを目的とし、むつ市管内脇野沢地区・川内地区・大畑薬研地区に生息するニホンザルの生息調査等を実施した。

## 2. 調査地域

むつ市 脇野沢地区・川内地区。大畑薬研地区



### 3. 調査内容

従来ならば夏季調査も冬季調査も調査員を参集し、一斉実態調査を実施するはずであったが、今年はコロナウィルス感染防止対策で、広く調査員を集めての調査が実施できなかった。そこで、調査そのものに空白が生じることを避けるため、脇野沢・川内地区は地元調査員の春からの通年の観察記録を分析し調査結果に反映した。また、菓研・大畑地区は2020年12月22日～25日(4日間)前後の移動日も含め6日間、少人数で小規模であったが調査を実施した。2021年1月末まで地元調査員が補足調査を実施、むつ市管内のニホンザル出没状況の聞き取り調査も加味し、2020年度(令和2年度)むつ市管内に生息するニホンザル生息実態調査として報告する。

### 4. 調査ならびに調査結果への取り組み方(姿勢)

下北半島のニホンザルの生態調査は、1960年代から2020年の現在に至るまで、継続調査している日本でも稀有な調査の歴史を持っている。当NPO法人ニホンザル・フィールドステーションは、団体の名称は変わったものの当初から調査に携わっている。

毎回、正確なサルの実態の把握を心がけているが、突然サルが群れから離れたり、群れに入ってきたりし、群れの個体数も変動、常に同じ数があるものではない。また、今まで生息していない地域へ突然遊動し行動範囲を広げることもある。採食物にしても今まで食べなかったものを、突然食べ始めることもある。このように、サルは非正常性の生き物といえる。

これらのことを念頭に、調査成果の報告で以下の3点について、特に慎重に判断してきた。

#### ① 今までサルの生息を確認していない地域でのサルの出没について。(新群の扱い)

突然、サルが湧いて出るわけではない。まず、出没したサルがハナレザルか否か、複数だとしてもオスグループかどうか、群れだとしたらその個体数や構成(ベビーの数やオトナオスの数など)と状況把握を第一に行う。ハナレザルやオスグループだとした場合その旨を報告するにとどまるが、出没したサルが群れの場合は近隣のサルの群れの実態把握が必要となる。近隣の群れのこれまでの個体数や構成、生息域、観察地点などを精査する必要がある。個体識別が可能な場合は重要な判断基準となる。そして、あくまでも同時観察を原則とし、新たな群れについて群れと認定するかどうか、どの群れからの分裂群か、を判断する。一時的なサブグループングということも考えられる。確実なのは、もう一度しばらく経過してから、再確認することで確実性が増す。この場合も、同時観察が基本となる。

#### ② 過去にサルの群れを確認し、群れ名も明らかにしている地域で、サルの群れを観察した場合について。(群れの重複防止)

下北半島に生息するサルの群れには、調査ごとに群れの確認がとれ、個体数も構成もほぼ正確に記録できる群れもいるが、全てがそういった継続確認できる群れとは限らない。2～3年前に確認した群れの生息地で、サルの群れを見た場合、ふつう2～3年前に確認した群

れと推定するのが自然な判断だ。もちろん、個体識別していれば判断の材料となる。個体識別ができていない場合は、個体数や構成、近隣の群れの状態などで重複しないように努める。重複しないように心がけることは、保護管理を実施する上で大変重要なことである。

その地域にすでに群れの存在を認定している場合、同時観察ができていない以上、サル  
の群れを見たからといって、新しい群れと軽々に判断できない。ただ、報告書には観察記録を  
残し、後々の判断の材料とする。新しい群れだ、いや違うといった議論に陥りがちだが、  
当NPO法人は、より真実を求める上で、群れの重複を極力避けることを第一とし慎重に  
判断している。

新しい群れや群れの重複を避ける理由は、安易に群れの認定をしてしまうと、その結果が  
一人歩きし、猿害対策においても、下北のサルの生態調査においても、基礎データとなって  
いつまでも残っていくからだ。その後の調査で、判断ミスとわかった場合、その訂正にかな  
りの時間、労力、経費を費やさなければならない。そうした覚悟もなく、軽々しく群れの認  
定はできない。そこには慎重さが求められる。

### ③ 群れの名称について

1960年代下北半島には、A群、O群、B群、Z群、M群、I群の6群が確認されていて、  
その後U群が加わった。現在、確認している群れは、全てこの7群からの分裂群というこ  
とになる。ただ、群れの数も多くなり、生息地が山深いことなどで、継続して確認できて  
いたとはいえない。かなり長期間、確認が取れていない間に、分裂を繰り返し、出身その  
ものまでがわからなくなった群れも多い。

群れの名前は、その群れの出身がわかり、いわば群れの歴史を示すものだ。以前、別の調  
査会が既存の群れ名を変更して新しい名前前で報告したことがあった。下北のサルの実態を探  
る上で紛らわしくわかりづらいことを指摘され、既存の群れ名に直す結果となった。たとえ  
調査の体制や主体が変わっても、既存の群れ名を踏襲することは、サルの歴史や現状の分析、  
猿害への対策など、広く下北半島のサルと関わる上で、根幹となることだ。

群れ名は、分裂が確認でき、2つまたは3つになった場合は、アルファベットの次に数字  
を加え、出身がわかるよう工夫している。次々と分裂している場合は、アルファベットと  
数字を交互に組み合わせている。ただ、分裂の際、出身群が判らない群れは、発見地点や  
流域をとって、〇〇沢の群れとか、〇〇山の群れといった地名、河川名などを付けている。

また、調査を実施中、群れ名と生息地域との関連が分かりやすくするために、群れ名を  
愛称で呼ぶこともある。

以上、3点のことに留意して、NPO法人ニホンザル・フィールドステーションは、調査  
に取り組み、報告書を作成している。

## II 調査結果

### 1. 脇野沢・川内地区

#### A87-A群

2020年12月11日

15:00～15:50 九艘泊集落を東から西へ横断移動時

《 構成 》

	♂	♀	計
オトナ	5	18	23
ワカモノ	5	4	9
4歳	3	5	8
3歳	3	3	6
2歳	4	3	7
1歳	6	3	9
Baby	3	7	10
計	29	43	72

72頭(内10Baby) + α

※ +αは少ない

※ オトナ♀1頭に電波発信機が装着、また、オトナ♀1頭に装着した電波発信機は電波を発信していない。

#### A87-B群

2020年7月4日

九艘泊-滝山線 九艘泊側の道路のり面

《 構成 》

	♂	♀	不明	計
オトナ	3	10		13
ワカモノ	2	2	1	5
4歳		1	2	3
3～4歳		1	1	2
2～3歳			2	2
1～2歳			5	5
Baby	1	2		3
不明			1	1
計	6	16	12	34

34頭(内3Baby) + α

※ 九艘泊-滝山線の自動車道路の九艘泊側ならびに滝山側の両サイドで観察することが多い。A87-A群との接触では、常にA87-B群が逃げている。

※ 電波発信機を装着しているサルはいない。

A2-84a 群

2020年9月 23日 13:40~13:55

田の頭林道を南から北へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	不明	計
オトナ	3	6		9
3~4歳			1	1
2~3歳			1	1
1~2歳			3	3
Baby			3	3
計	3	6	8	17

17頭(内3Baby)

※ オトナ♂の1頭は、群から少し離れて行動していた。

※ オトナ♀1頭に赤色の電波発信機装着個体がいる。

A2-84b 群

2020年6月 13日 9:40~10:30

牛の首岬の道路を南から北へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	6		7
ワカモノ	1	2		3
4~5歳	1			1
3~4歳	1			2
2~3歳	2			2
1~2歳	1			1
Baby	1			1
計	8	8		16

16頭(内1Baby)

※ オトナ♀に赤色と青色の電波発信機装着個体2頭がいる。

※ 子ザル6頭がすべて♂と性の偏りがある。捕獲の結果の偏りである。

A2-84c 群

2020年5月 12日 14:10~15:25

九艘泊地区サル橋南

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	1		2

ワカモノ	1			1
6~7歳	2			2
5~6歳	2			2
2~3歳			1	1
Baby			1	1
計	6	1	2	9

9頭(内1Baby)

※ A♀が出産し、その親子に♂ザルたち7頭がついている状況。♂と♀の群れの中でのバランスが悪い。一時的なものでゆくゆくは♂のほとんどが群れから離れることが推測される。電波発信機についていない小さな群れであることから、その発見が難しい。

#### A2-85群

2020年12月9日 10:50~12:05

口広地区 水源地工事現場移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	8		9
ワカモノ		2		2
2~3歳		1	4	5
1~2歳			4	4
Baby			5	5
計	1	11	13	25

25頭(内5Baby)

※ オトナ♀2頭に電波発信機が装着されている。

#### O1-A群

2020年7月25日 9:10~9:35

国道338号線海峡ラインゲート北100m地点

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	8		10
ワカモノ	1	1		2
5~6歳		1		1
4~5歳		1	2	3
3~4歳			3	3

2～3歳			6	6
1～2歳			4	4
Baby			4	4
不明			1	1
計	3	11	20	34

34頭 (内 4Baby) +  $\alpha$

※ オトナ♀1頭に電波発信機が装着されている。

### ○1-B群

2020年7月29日

13:35～13:53

下細間林道出合いより西100mの細間林道  
北から南へ横断時

#### ◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	6	1	9
ワカモノ	1	1	1	3
4～5歳	1	1	4	6
3～4歳	1		1	2
2～3歳			4	4
1～2歳			6	6
Baby			3	3
計	5	8	20	33

33頭 (内 3Baby) +  $\alpha$

※ +  $\alpha$ は少ない。

※ 電波発信機装着個体はいない。

※ 同日、九艘泊地区でA87-A群とA87-B群を観察していた。

### ○2-A群

2020年8月2日

9:20～10:00

国道338号線海峽ライン ゲートより北1.0 km地点

#### ◀ 構成 ▶

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	9		13
ワカモノ	1		1	2
5～6歳	1		1	2
4～5歳	1		2	3
3～4歳	1	1	3	5

2～3歳			3	3
1～2歳			5	5
Baby			4	4
計	8	10	19	37

37頭 (内 4Baby) +  $\alpha$

※ 電波発信機装着個体はいない。

※ オトナ♂に鼻先欠損個体がいる。

※ 国道 338 号線海峡ラインのゲートから大荒川林道入り口までかなり広い範囲を遊動している。

### O2-B群

2020年12月11日

「道の駅」南 国道 338 号線東の水田跡を移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	5	14		19
ワカモノ	2	2		4
3～4歳			2	2
2～3歳			2	2
1～2歳	1		1	2
Baby	4	6	1	11
計	12	22	6	40

40頭 (内 11Baby) +  $\alpha$

※ +  $\alpha$  はまだ数頭はいる。オトナ♀の数に比べて子ザルの数が少ない。また、同日群れがかなり広がっていたことから、観察できなかった個体があった。

※ 電波発信機装着個体はいない。

### 男川A群

2020年7月31日 10:30～10:45

男川林道の蛸崎雨量観測局南 200m地点

西から東へ移動時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ			4	4
ワカモノ			3	3
4～5歳	1		1	2
2～3歳			2	2

1～2歳			1	1
計	1		11	12

12頭 +  $\alpha$

- ※ Baby が全く観察できていないことなどで、+  $\alpha$  はまだまだいそう。
- ※ 電波発信機装着個体はいない。
- ※ この群れが宿野部川流域まで遊動していると思われる。

### 男川B群

2020年8月23日 9:10～10:15 国道338号線海峡ラインの石碑付近から男川流域板家戸沢へ下る時

#### 《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	2	7		9
ワカモノ	1			1
4～5歳	1	2		3
3～4歳			2	2
2～3歳	1			1
1～2歳		1	3	4
Baby			3	3
計	5	10	8	23

23頭(内3Baby) +  $\alpha$

- ※ 電波装着個体はいない。
- ※ 観察地点が国道338号線海峡ラインでありと02-A群と競合しているが、構成の違いや鼻先欠損のオトナ♂がいなかったこと、それに男川の板家戸沢へ降りて行ったことなどから男川の群れと判断した。

### M2-B群

#### その1

2020年11月23日 10:15～10:30 県道川内-佐井線カモシカラインのスノーシェルター工事現場付近

#### 《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	3		4
3歳			2	2
2歳			3	3
1歳			2	2

Baby			1	1
計	1	3	8	12

12頭 (内 1Baby) +  $\alpha$

※ 電波発信機装着個体はいない。

その2

2020年12月5日 10:05~10:40

県道川内-佐井線カモシカライン目名林道出会い北500m地点

構成とれず

20頭 (内 1Baby) +  $\alpha$

※ オトナ♂が3頭は確認。

※ 電波発信機装着個体はいない。

その3

2020年11月25日 10:35~13:55

県道川内-佐井線カモシカラインの大戸ヶ淵小公園近くの川内川右岸を南下時

《 構成 》

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	6	1	10
ワカモノ	1	4	1	6
4歳			1	1
3歳			2	2
2歳			2	2
1歳			4	4
Baby			2	2
計	4	10	13	27

27頭 (内 2Baby) +  $\alpha$

※ オトナ♀1頭に電波発信機が装着されている。

安部城北の群れ

2020年12月18日 10:45~11:35

県道川内-佐井線カモシカライン川内川発電所の川の両岸に広がっている

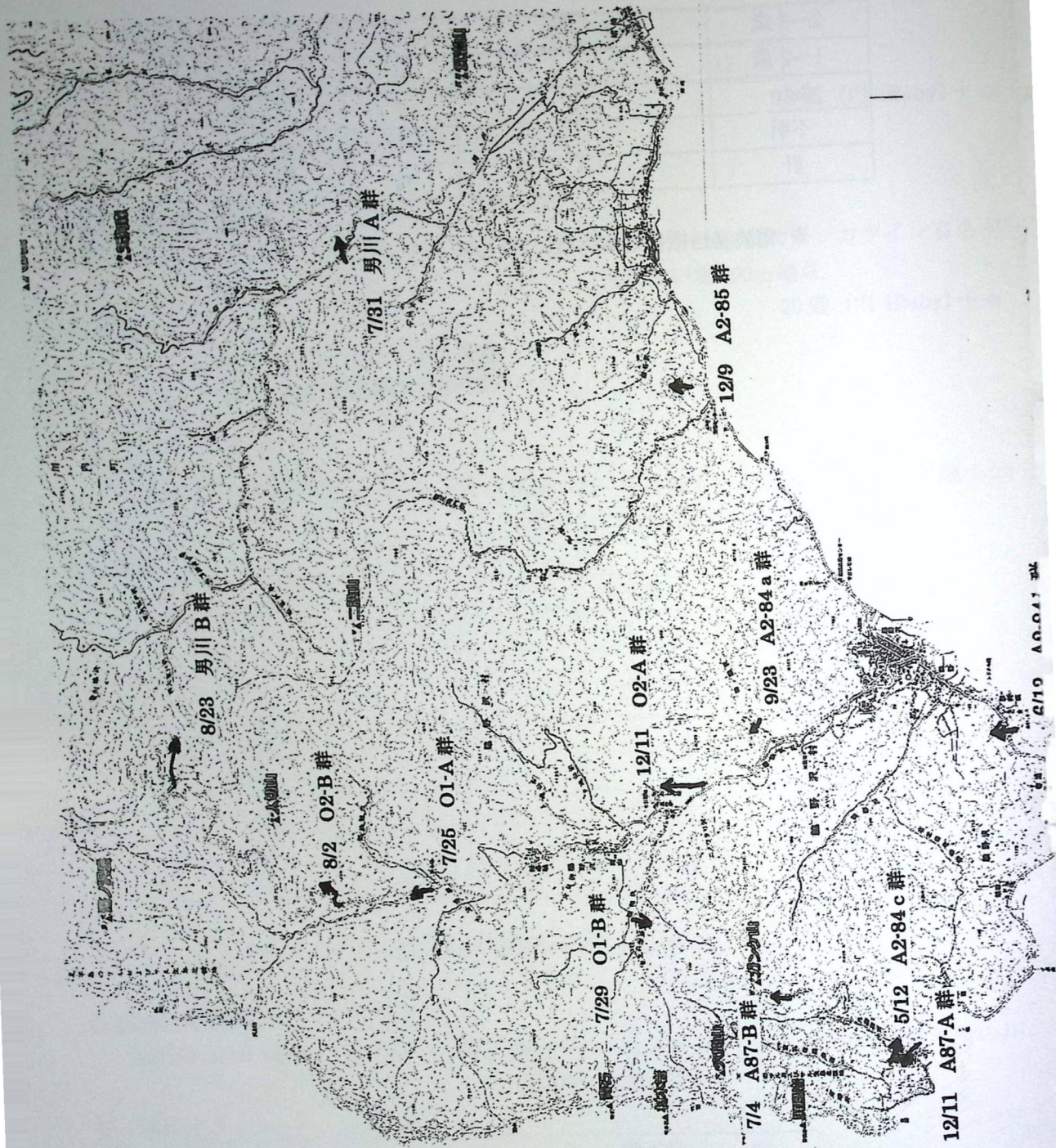
《 構成 》

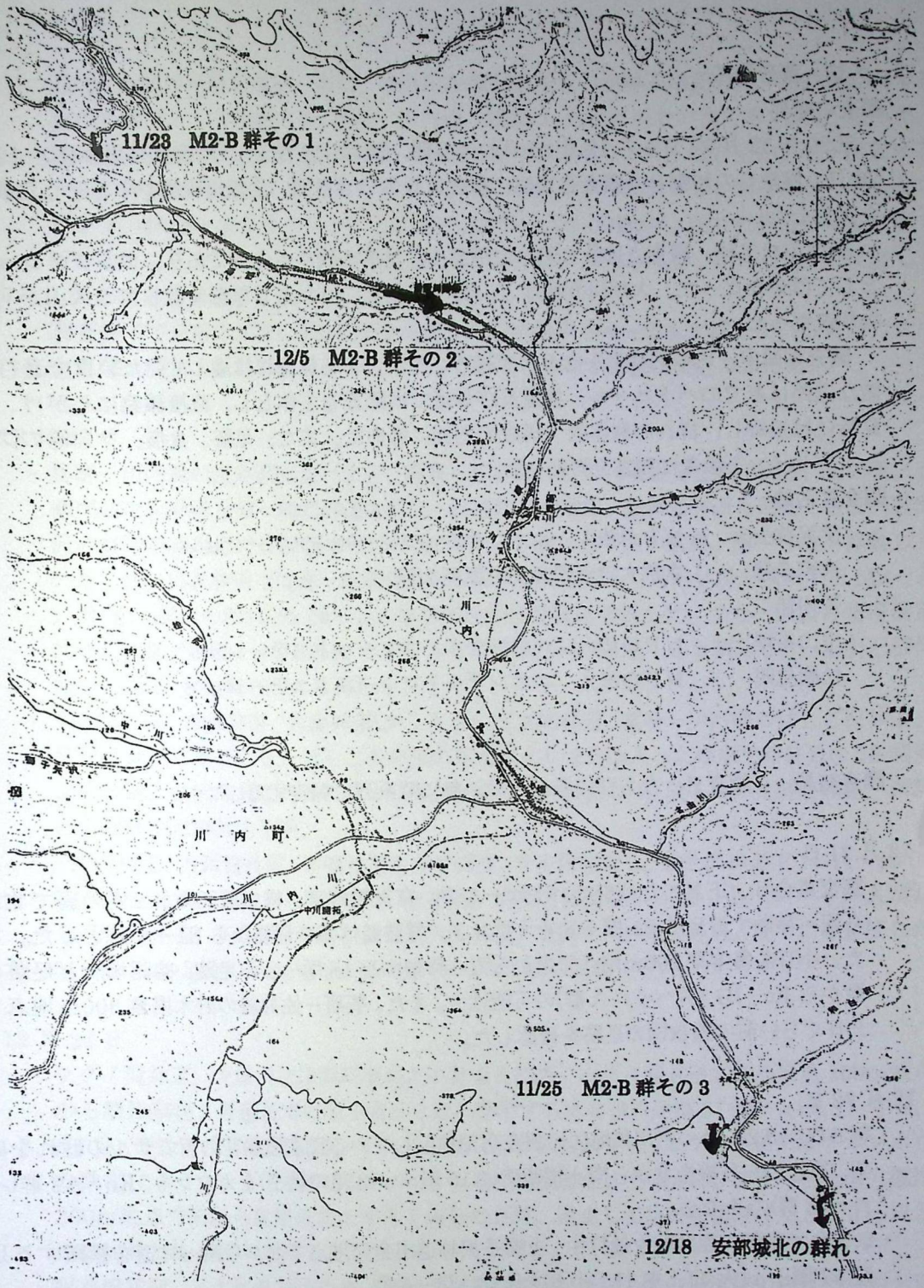
	♂	♀	性不明	計
オトナ	5	13	1	19
ワカモノ	2	3	4	9
3~4歳			4	4

2～3 歳			5	5
1～2 歳			4	4
Baby			7	7
不明			9	9
計	7	16	34	57

57 頭 (内 7Baby) +  $\alpha$

※ 電波発信機装着個体はいない。





2020年 ニホンザル調査 サル情報 川内地区

## 2 大畑・薬研地区

### 調査の概要

2020年12月22日から12月25日の4日間、それに12月21日の調査員集合日と12月26日の解散日の移動日も調査を実施、調査員5名で6日間、大畑川流域を中心とした調査を実施した。

積雪の状況は、調査には最も適した積雪で、足跡の残りも十分であり、コンディションとしては最良だった。大畑川流域など山奥での調査にはかんじきを使用しての入山が可能な状況だった。

調査期間中、比較的穏やかな日々が続き、足跡による確認には適していた。車で通行可能な道路は車でのパトロール、林道及び歩道では踏査を主体とし、直接観察に心がけ、発見時には追跡し、群れの個体数・構成の把握に努めた。また、足跡、食痕、フン等のフィールドサインも参考に調査を実施した。

### 調査員名簿

伊沢紘生	NPO法人 ニホンザル・フィールドステーション
清家多慧	京都大学理学部博士課程2年
建川洋二	
中山裕理	NPO法人 ニホンザル・フィールドステーション
松岡史朗	NPO法人 ニホンザル・フィールドステーション

**調査結果** 調査日、ならびに各パーティ毎に時系列に報告する。

### 12月21日

- ・調査集合日、下見のため車でパトロール中、宮後牧野東、椋山地区の木工所の裏で北から南へ移動する足跡 31 頭 +  $\alpha$  をカウント。電波発信機の情報から S1-A 群とした。また、小目名集落東 200m 地点で東から西へ移動する 18 頭 +  $\alpha$  の足跡。確認場所と足跡の数から Ko - B1 群(ハイロ A 群)の可能性大。また、薬研-佐井線の貯木場東 300m 地点で 2 日ぐらい前の複数頭の足跡を確認した。

### 12月22日

- ・朝 8:00~8:20 むつ市川代地区の調査宿泊地としている民宿汽船荘の西でサル群れを確認。国道 279 号線を北から南へ横断時に 18 頭 +  $\alpha$  (2 組の親子) をカウント。Ko - A2 群(イロハ B 群)のその 2
- ・車 3 台で薬研-佐井線を通行中、上獅子沢林道出会い地点で北から南へ林道を横断する足跡 57 頭 +  $\alpha$  (大 41、中 11、小 5) を確認。I3-A 群。
- ・薬研-佐井線を車で調査したグループは、佐井との境界を越えたあたりで 11 頭の足跡と

追従の2頭の足跡を確認。また、稜線佐井側で2頭分の足跡を確認した。佐井地区側であるため参考として記録する。薬研一川内線の調査は、長次郎出合いまで車で調査、その先、重兵衛沢林道と上沢林道を踏査。上沢林道1.5km地点の貯木場を南から北へ移動するサルの群れを目視、31頭を数えるが、すでに移動していたサルもいたことから足跡をカウント、48頭+ $\alpha$ をカウントする。M2-A2群(上沢川の群れ)。囲井沢林道の調査は車で行けるところまで入り、その後は踏査をし、囲井沢の二股を奥まで調査した。二股近くで1頭分の足跡を確認する。

- ・調査終了で帰路中に21日に足跡を確認した貯木場東300m地点で樹上にいる3頭のサルを目撃、現状では群れ名は不明。もう少しいるようだが確認はできなかった。

## 12月23日

- ・薬研一川内線の囲井沢出合いまで、薬研一佐井線の市町村境までを車で調査、その後、右衛門四郎沢林道と弥一郎沢林道を踏査、調査終了の帰路、昼飯場林道を踏査。右衛門四郎沢の林道終点付近で3日前ぐらいの22頭+ $\alpha$ の群れ名不明の足跡。南から北へ移動していた。弥一郎沢林道では弥一郎五号橋と中の沢橋間を東から西へ林道を横断するM2-A1群(弥一郎沢の群れ)45頭+ $\alpha$ の本日午前中の足跡を確認した。また、帰路に薬研橋東100m地点で8頭+ $\alpha$ (1Baby、1老♀を含む)足跡から14頭+ $\alpha$ を確認した。場所と個体数からKo-B2群(ハイロB群)。
- ・二階橋林道、深沢林道、大曲林道(少し入る)、三太郎林道、薬研一川内線のはしご沢林道、長次郎林道に車で入る。はしご沢林道の車止めより2.0km入った地点で昨日分の13頭+ $\alpha$ の足跡、長次郎林道の入り口より1.8km地点で昨日分の18頭+ $\alpha$ の足跡を確認。両群とも現状では群れ名不明。
- ・小西股林道、大西股林道、赤滝林道を車で調査。サル情報なし。葉色沢林道で14:14~15:00に5頭を目撃、足跡から25頭+ $\alpha$ を確認。場所と個体数からKo-B1群(ハイロA群)。
- ・上近藤沢林道、下近藤沢林道、新右衛門沢林道、上獅子沢林道を踏査。前日に家運度した57頭+ $\alpha$ の足跡の来た方向とその後の行った方向を確認できた。

## 12月24日

- ・ウグイ滝林道、大畑川左岸薬研温泉北の林道を踏査。ウグイ滝林道の採石場奥100m地点から朝比奈橋2号橋までの間で東から西へ移動する本日分の足跡27頭+ $\alpha$ (大17、中9、小1)。かなり広い範囲で渡っていて足跡の重なりは少なく、カウント結果はアカンボウの数だけがカウントされていないぐらい。場所と個体数からKa群。また、朝比奈大橋南200m地点で南から林道を北上する1頭分の足跡。逆走して足跡を追跡すると1.0kmほど足跡は続き左岸側から出ていた。
- ・囲井沢林道、三太郎沢林道を車と徒歩で調査。囲井沢西側の沢の上流部で昨日のものと思われる足跡、23頭+ $\alpha$ (大20、中2、小1)確認する。北上していた。東側の沢を踏査する

と分岐より 600m地点の左岸で 2 歳♂1 頭を目視、群れのサルの鳴き声も 23 頭 +  $\alpha$  の足跡と繋がる。この足跡は、23 日にはしご沢林道の車止めより 2.0 km 入った地点確認した 13 頭 +  $\alpha$  の足跡と繋がり、M2-A3 群(囲井沢の群れ)。三太郎沢では入り口から 600m 地点で本日分の足跡 1 頭を確認、左岸から出てきて左岸へ戻る動きをしていた。

- ・釜の沢林道を車で調査。8:50~9:30 入り口より約 1.5 km 地点で 6 頭を目視、その後、9:45~10:33 ゼンマイ橋の 300m 下流の左岸に広がる 36 頭をカウント。オトナ♀に白っぽい電波発信機を装着した個体を確認し Ko-A1 群(イロハ A 群)とする。追従♂9 頭を加えると 45 頭を確認する。また、371 ピーク北東の地点、ゼンマイ橋より 1.0 km 地点で昨日分の 24 頭分(大 11、中 7、小 6)の足跡を確認、南東から北西に向かっていた。場所と個体数より S2 群(恐山の群れ)。

12月25日

- ・薬研ゲートまで、新田地区の送電線下まで踏査。川代-高梨農道で構成は取れなかったが Ko-A2 群その 1(イロハ B 群)43 頭 +  $\alpha$  をカウント。電波発信機装着老♀はよぼよぼ、かなり衰弱している。また、発信している電波も微弱で電池切れ寸前といった状況。その後、国道 279 号線を下北自然の家まで車で調査、二枚橋地区の畑で I2-A2 群(キノブ B 群)7 頭 +  $\alpha$  の昨日の足跡。その後、薬研温泉郷で昨日釜の沢林道で観察した Ko-A1 群(イロハ A 群)を 24 頭 +  $\alpha$  をカウント(建川氏)。途中からのカウントでフルではなかった。
- ・薬研-川内線の長次郎出会いまで、薬研-佐井線の市町村境まで、囲井沢林道、弥一郎沢林道を車と徒歩で調査。囲井沢林道の二股手前で東から西へ移動する 20 頭 +  $\alpha$  の足跡。昨日分との足跡のトレースが続かない状況。囲井沢の中に二つの群れがいることになる。今回の調査では昨日の 23 頭 +  $\alpha$  の足跡を囲井沢の群れその 1、今日の 20 頭 +  $\alpha$  の足跡の群れを囲井沢の群れその 2 とする。
- ・薬研-佐井線の市町村境、三太郎沢林道、二階滝林道を車で調査。薬研-佐井線 貯木場を南から北へ移動する昨日の午後について Ko-B2 群(ハイロ B 群)13 頭の足跡。上獅子沢林道出合いで北の近藤沢側から南へ本道を移動する昨日の午後の 41 頭 +  $\alpha$  の足跡。現状では不明群。また、三太郎沢林道入り口より 300m 地点で昨日の午後について 17 頭 +  $\alpha$  の足跡。場所から M2-A4 群(三太郎沢の群れ)だろう。

12月26日

- ・薬研-佐井線の三太郎沢出会いまで車で調査。25 日に不明とした 41 頭の足跡の詳細を調査、調査初日 22 日に確認した I3-A 群 57 頭の足跡と判明した。

《群れ毎のまとめ》

I2-A1 群 (キノップ A 群)

今調査期間中、群れの確認はできなかった。

※ テレメを装着した個体がいなくなり、群れの発見や同定が困難となっている。また、下風呂地区あたりを遊動することがあり、調査中に発見できない場合が多くなっている。

I2-A2 群 (キノップ B 群)

事前調査 2020年11月16日 14:05~14:55 木野部峠 ハーモニー橋

構成とれず 7頭+ $\alpha$

※ 2020年12月25日 二枚橋地区の畑で7頭+ $\alpha$ の昨日の足跡を確認

I2-C 群

今調査期間中、群れの確認はできなかった。

I3-A 群

構成とれず 2020年12月22日 薬研-佐井線、上獅子沢林道出会い地点。北から南へ林道を横断する昨日分の足跡

57頭(大41、中11、小5)+ $\alpha$  [足跡]

※ 足跡は昨日のもの。

Ko-A1 群 (イロハ A 群)

《 構成 》 2020年12月24日 8:50~10:33 釜の沢林道 ゼンマイ橋付近左岸

	♂	♀	性不明	計
オトナ	7	14		21
ワカモノ	1			1
4歳	2		2	4
3~4歳			1	1
3歳			4	4
2歳			3	3
1歳			5	5
Baby			3	3
不明			3	3
計	10	14	21	45

45頭(内3Baby)+ $\alpha$

※ 白色のテレメを装着したオトナ♀を確認。テレメは発信していない。白色のテレメは首輪そのものも毛で覆われていてわかりづらく、白色も黒っぽく見えくすんだ白色なので、わかりづらい。

※ 45頭には追従♂を含む。追従♂はオトナ4、ワカモノ1、4歳1、足跡大1、中2の計9頭

### Ko-A2-A群 (イロハB-1群)

構成はとれなかった。

2020年12月25日 10:05~11:00 川代-高梨農免道路

43頭(内3Baby)+α

※ 老メスに電波発信機が装着されているがよぼよぼで衰弱している。また、このメスの電波かどうかは不明だけど、かなり微弱で電池切れ寸前状態だ。

### Ko-A2-B群 (イロハB-2群)

《 構成 》 2020年12月22日 8:00~8:20 川代地区 民宿汽船荘西100m

	♂	♀	性不明	計
オトナ	3	4		7
ワカモノ		2		2
2~3歳			2	2
1~2歳			1	1
Baby			2	2
不明			4	4
計	3	6	9	18

18頭(内2Baby)+α

※ +αは少ない。

※ Ko-A2群 (イロハB群) は昨年からの1とその2とし報告しているが、今年も同様の結果となった。分裂とみなしてKo-A2-A群 (イロハB-1群) Ko-A2-B群 (イロハB-2群) とする。

### Ko-B1群 (ハイロA群)

構成はとれず 2020年12月23日 14:14~15:00

葉色沢

25頭(内1Baby)+α【目視 足跡】

※ 電波を発信していない黄色のテレメを付けたA♀がいるが確認できなかった。

※ 目視でオトナ♂2、オトナ♀1、3歳1、2歳1の5頭は確認している。

**Ko-B2 群 (ハイロ B 群)**

◀ 構成 ▶ 2020年12月23日 14:30~14:35

薬研橋東 100m地点

	♂	♀	性不明	計
オトナ		5		5
3~4歳			1	1
1~2歳			1	1
Baby			1	1
不明			6	6
計		5	9	14

14頭(内1Baby) +  $\alpha$  【目視・足跡】

※ 不明6は足跡による頭数

※ 電波発信機装着個体はいない。

**Ka 群**

構成とれず

2020年12月24日

ウグイ滝林道 砕石場南 100m地点から  
朝比奈橋 2号橋までの間

27頭(大17、中9、小1) +  $\alpha$  【足跡】

※ +  $\alpha$  は少ない。足跡は本日分。

※ 足跡の重なりはほとんどない。

**M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)**

構成とれず

2020年12月23日

弥一郎沢林道 弥一郎五号橋と中の橋間

45頭(大31、中11、小3) +  $\alpha$  【足跡】

※ 足跡は本日分。

**M2-A2 群 (上沢沢の群れ)**

◀ 構成 ▶ 2020年12月22日 13:20~13:45

上沢沢林道 1.5 km地点 貯木場

	♂	♀	性不明	計
オトナ	4	8		12
ワカモノ	1	3	3	7
3~4歳		1	2	3
2~3歳			3	3
1~2歳			3	3
Baby			3	3
不明			17	17
計	5	12	31	48

48頭(内3Baby) +  $\alpha$  【目視・足跡】

※ 目視は31頭でその後、足跡をカウント。性、年齢不明が17頭と多いのは足跡によるカウント。

#### M2-A3群 (囲井沢の群れ)

##### M2-A3群 (囲井沢の群れ) その1

構成とれず 2020年12月24日 囲井沢の分岐西側沢 ピーク503南の林道  
23頭(大20、中2、小1) +  $\alpha$  【足跡】

※ 足跡は昨日のもの。+ $\alpha$ はまだまだいそう、足跡の重なりがあった。

##### M2-A3群 (囲井沢の群れ) その2

構成とれず 2020年12月25日 囲井沢分岐北 右岸から下りてきたもの  
20頭 +  $\alpha$  【足跡】

※ 足跡は昨日13:00以降についたもの。

※ その1とは別。足跡がつながらない。囲井沢の中に2つの群れがいることになる。  
今回の報告では囲井沢の群れその1とその2としておく。

#### M2-A4群 (三太郎沢の群れ)

構成とれず 2020年12月25日 三太郎沢林道起点より南へ600mほど入った地点 右岸から左岸へ移動  
17頭(大5、中7、小4、Baby1) +  $\alpha$  【足跡】

※ 足跡は昨日の午後についたもの。

#### S1-A群 (新田A群)

構成とれず 2020年12月21日 栳山地区、山田建材の裏。  
31頭 +  $\alpha$  【足跡】

※ 足跡は昨日のもの。

#### S1-B群 (新田B群)

今調査期間中、群れの確認はできなかった

#### S2群 (恐山の群れ)

構成とれず 2020年12月24日 釜の沢林道中流ピーク371北東地点 道路を南東から北西へ横断  
24頭(大11、中7、小6) +  $\alpha$  【足跡】

※ 足跡は昨日のもの。

《 不明群① 》

構成とれず

2020年12月23日

右衛門四郎沢林道終点地点

22頭+ $\alpha$ 【足跡】

※ 足跡は2~3日前のもの。

《 不明群② 》

構成とれず

2020年12月23日

長次郎沢林道入口より1.8km地点

18頭+ $\alpha$ 【足跡】

※ 足跡は昨日分。

ハナレザル

- ・2020年12月22日 囲井沢林道分岐近くで1頭分の足跡。林道を行き来していた。
- ・2020年12月24日 ウグイ滝林道 朝比奈大橋奥200m地点1頭分の足跡。本日分左岸より下りてきて林道を1.0kmほど北へ移動し右岸方向へ移動。

[ 参考 ] 佐井地区の領域

構成とれず

2020年12月22日

葉研-佐井線 市町村境を越えた地点。

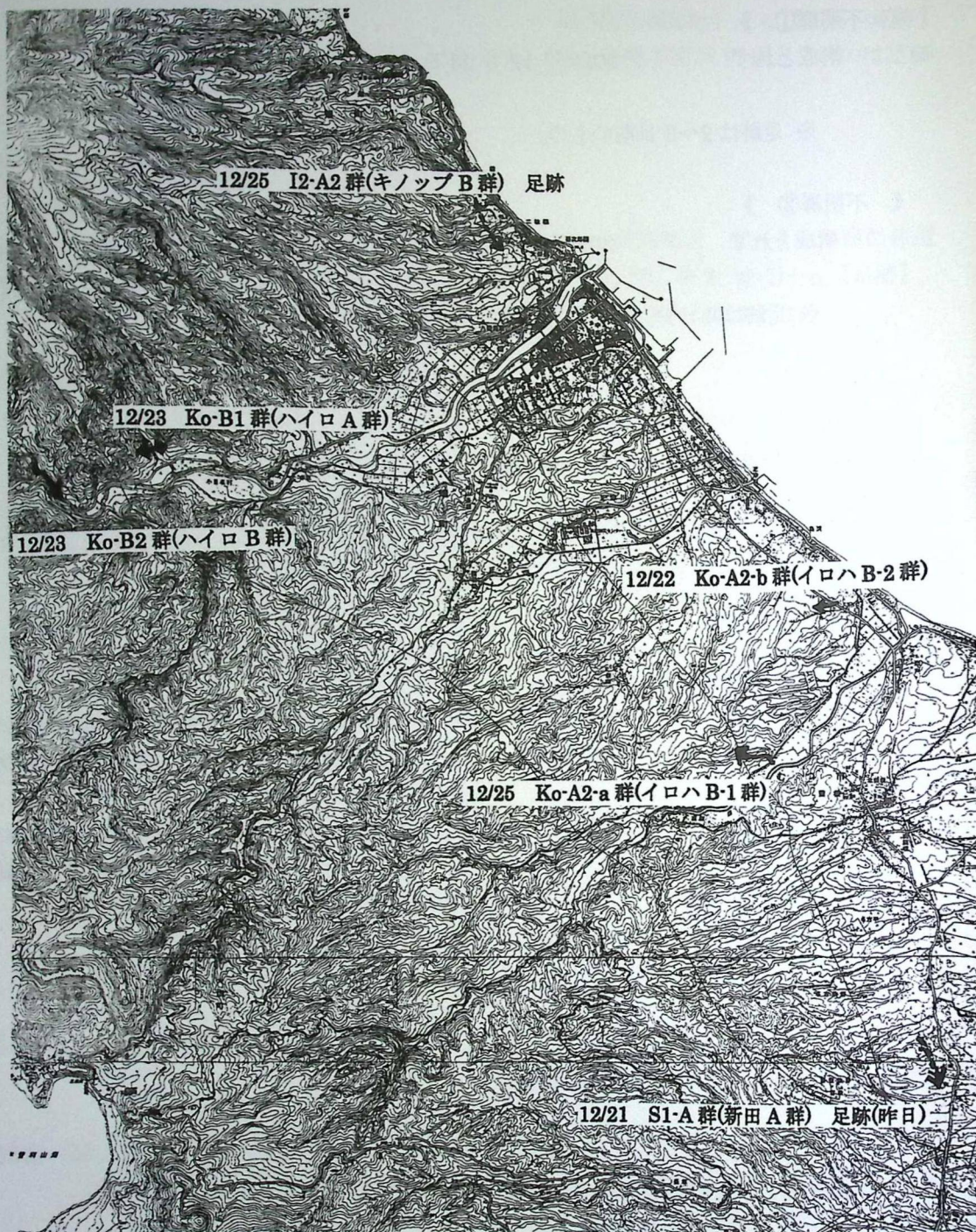
13頭(大6、中4、小1+追従 $\alpha$ 2)【足跡】

構成とれず

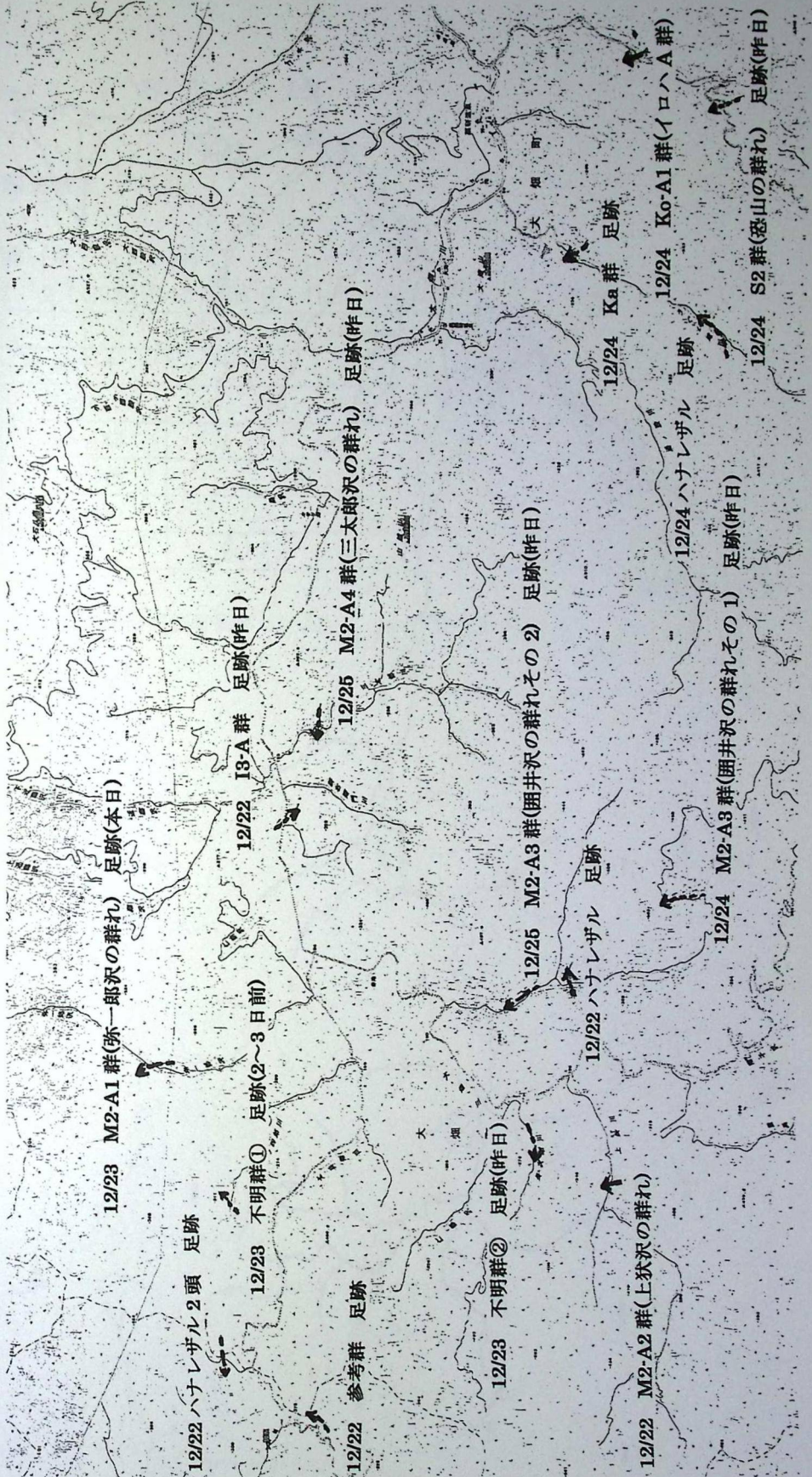
2020年12月22日

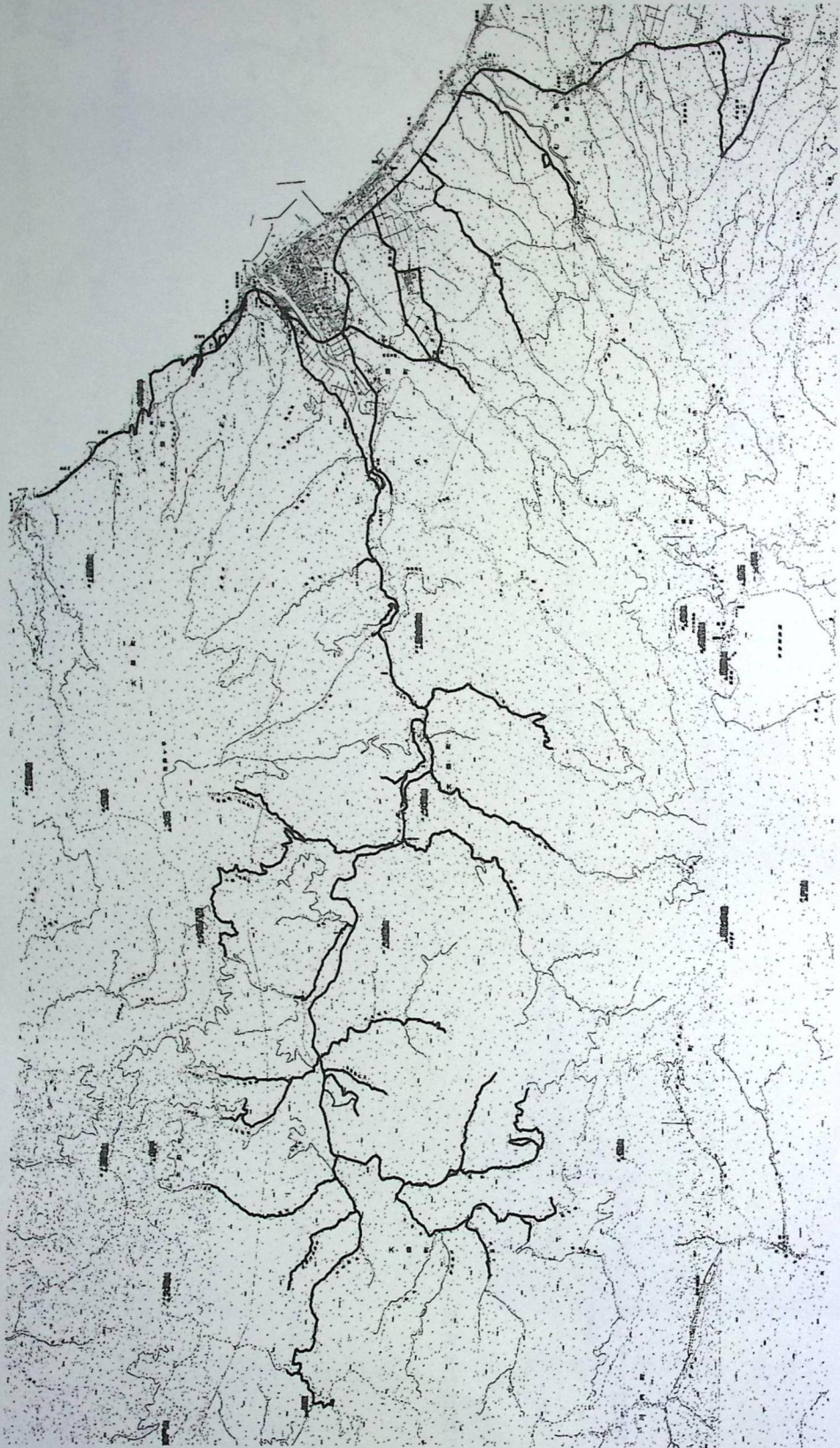
葉研-佐井線 市町村境を越え天狗岩林道

2頭(中2)【足跡】



2020年 冬季ニホンザル調査 大畑・菓研地区 サル情報 その1





2020年 冬季ニホンザル調査 大畑・栗研地区 踏査ルート図(車でのパトロールを含む)

### 3 補足調査結果

#### I2-A2 群 (キノップ B 群)

《 構成 》 2020年12月28日 11:30~12:05

二枚橋小学校近くの畑

	♂	♀	性不明	計
オトナ	1	3		4
ワカモノ		1		1
3~4歳	1		1	2
1~2歳			1	1
Baby			1	1
計	2	4	3	9

9頭(内1Baby)

※ 電波発信機装着個体はいない。フルカウント。

### Ⅲ まとめ

2020年度むつ市管内のニホンザル生息実態調査の結果を報告する。

	群れ名	個体数	調査日	調査地	2019年度
1)	A2-84a 群	17 頭 (3B)	2020-9-23	田の頭林道	14 頭+ $\alpha$ (2B)
2)	A2-84b 群	16 頭 (1B)	2020-6-13	牛の首岬道路	25 頭 (4B)
3)	A2-84c 群	9 頭 (1B)	2020-5-12	九艘泊地区サル橋	未確認
4)	A2-85 群	25 頭 (5B)	2020-12-9	口広地区	50 頭+ $\alpha$ (9B)
5)	A87-A 群	72 頭+ $\alpha$ (10B)	2020-12-11	九艘泊地区集落	73 頭 (11B)
6)	A87-B 群	34 頭+ $\alpha$ (3B)	2020-7-4	九艘泊一滝山線	35 頭+ $\alpha$ (6B)
7)	O1-A 群	34 頭+ $\alpha$ (4B)	2020-7-25	国道 338 号線ゲート北	40 頭+ $\alpha$ (8B)
8)	O1-B 群	33 頭+ $\alpha$ (3B)	2020-7-29	細間林道	28 頭+ $\alpha$ (5B)
9)	O2-A 群	37 頭+ $\alpha$ (4B)	2020-8-2	国道 338 号線 M字カーブ	51 頭+ $\alpha$ (11B)
10)	O2-B 群	40 頭+ $\alpha$ (11B)	2020-12-11	国道 338 号線東 七引地区	その 1
					14 頭+ $\alpha$ (2B)
					その 2
					20 頭 (2B)
11)	男川 A 群	12 頭+ $\alpha$	2020-7-31	男川林道 中流部	27 頭+ $\alpha$ (3B)
12)	男川 B 群	23 頭+ $\alpha$ (3B)	2020-8-23	国道 338 号線 石碑	
13)	M2-B 群 その 1	12 頭+ $\alpha$ (1B)	2020-11-23	県道川内-佐井線 工事現場	4 頭+ $\alpha$
	M2-B 群 その 2	20 頭+ $\alpha$ (1B)	2020-12-5	県道川内-佐井線 目名林道入口付近	57 頭+ $\alpha$ (12B)
	M2-B 群 その 3	27 頭+ $\alpha$ (2B)	2020-11-25	県道川内-佐井線 大戸ヶ淵小公園右岸	11 頭+ $\alpha$
14)	湯の小川沢の群れ	未確認			未確認
15)	安部城北の群れ	57 頭+ $\alpha$ (7B)	2020-12-18	県道川内-佐井線 川内川発電所	63 頭
16)	I2-A1 群 (キノップ A 群)	未確認			未確認
17)	I2-A2 群 (キノップ B 群)	9 頭 (1B)	2020-12-28	二枚橋小学校 奥の畑	7 頭+ $\alpha$ (1B)

18)	I2-C 群	未確認			未確認
19)	Ka 群	27 頭 + $\alpha$ 【足跡】	2020-12-24	ウグイ滝沢林道	15 頭 + $\alpha$ (2B)
20)	Ko-A1 群 (イロハA群)	45 頭 + $\alpha$ (3B)	2020-12-24	釜の沢林道 ゼンマイ橋 付近	20 頭 (3B)
21)	Ko-A2-a 群 (イロハB-1群)	43 頭 + $\alpha$ (3B)	2020-12-25	川代-高梨農免道路	48 頭 + $\alpha$ (1B) 【足跡・目視】
22)	Ko-A2-b 群 (イロハB-2群)	18 頭 + $\alpha$ (2B)	2020-12-22	川代地区	17 頭 + $\alpha$ (1B) 【足跡】
23)	Ko - B1 群 (ハイロA群)	25 頭 + $\alpha$ (1B) 【目視・足跡】	2020-12-23	葉色沢	17 頭 + $\alpha$ 【足跡】
24)	Ko - B2 群 (ハイロB群)	14 頭 + $\alpha$ (1B) 【目視・足跡】	2020-12-23	葉研橋東	未確認
25)	I3 - A 群	57 頭 + $\alpha$ 【足跡】	2020-12-22	葉研-佐井線 上獅子沢 出合い付近	48 頭 + $\alpha$ 【足跡】
26)	M2-A1 群 (弥一郎沢の群れ)	45 頭 + $\alpha$ 【足跡】	2020-12-23	弥一郎沢林道 中流部	未確認
27)	M2-A2 群 (上狄川の群れ)	48 頭 + $\alpha$ (3B) 【目視・足跡】	2020-12-22	上狄沢林道	未確認
28)	M2-A3 群 その1 (囲沢の群れ)	23 頭 + $\alpha$ 【足跡】	2020-12-24	囲井沢林道分岐西股	未確認
	M2-A3 群 その2 (囲沢の群れ)	20 頭 + $\alpha$ 【足跡】	2020-12-25	囲井沢林道分岐北	
29)	M2-A4 群 (三太郎沢の群れ)	17 頭 + $\alpha$ (1B) 【足跡】	2020-12-25	三太郎沢林道	9 頭 + $\alpha$ 【足跡】
30)	S1 - A 群 (新田A群)	31 頭 + $\alpha$ 【足跡】	2020-12-21	栂山地区	36 頭 + $\alpha$ (1B)
31)	S1 - B 群 (新田B群)	未確認			16 頭 + $\alpha$ (1B) 【足跡・目視】
32)	S2 群 (恐山の群れ)	24 頭 + $\alpha$ 【足跡】	2020-12-24	釜の沢林道 中流部	未確認
	B 群	未調査			《36 頭 + $\alpha$ 》 2005-8-4 長右衛門林道

	U群	未調査			《52頭+ $\alpha$ (13B)》 2012-8-6 牛滝集落周辺
	不明群①	22頭+ $\alpha$ 【足跡】	2020-12-23	右衛門四郎沢林道終点 地点	
	不明群②	18頭+ $\alpha$ 【足跡】	2020-12-23	長次郎沢林道	
	参考	13頭+ $\alpha$ 【足跡】	2020-12-22	菓研-佐井線 市町村境 佐井側	

- ※ 2020年度ニホンザル生息実態調査は、コロナウィルス感染防止対策で、従来のような人を集めての一斉実態調査はできなかった。ただ、脇野沢・川内地区は、地元調査員の通年におけるサルの群れの調査観察から得られたデータを精査、分析して報告することにした。また、大畑・菓研地区は、少人数で従来の調査を実施した。
- ※ 脇野沢・川内地区の群れは電波発信機が装着している群れや、群れに特徴のあるサルがいて、群れの同定が可能な群れが多く、群れの重複の可能性が少ないこともあり、まずまずの結果が得られた。ただ、やはり一斉調査で同日同時刻に群れの観察をするという基本は必要と思われる。大畑・菓研地区は、菓研-佐井線で工事・伐採の現場があり、除雪がされていることや積雪の状況から林道の奥まで車で入山できたことなどで、かなり精度の高い結果が得られた。
- ※ 菓研-佐井線で道路の補修工事、菓研-易国間線で伐採並びに搬出と、人や重機、大型トラックの往来が頻繁にあり、サルの生息にも少なからず影響があるものと思われる。
- ※ B群・U群は、むつ市管内のサルの群れではないことで、一覧表には入れないが、調査の継続から掲載する必要があるとし記載する。ただ、近年、確認できていない。調査地域外の菓研-佐井線の佐井地区側で13頭+ $\alpha$ の足跡、天狗岩付近で2頭分の足跡を確認した。参考資料として記載する。

《 各群れごとのコメント 》

- ※ A2-84a 群は、捕獲が進み個体数が17頭と減少している。オスザルの群れへの追従で個体数に若干の増減がある。野猿監視員による群れの管理が出来ている。遊動域を口広沢まで東進、国道338号の両側を遊動域としているが、東側サイドヘシフトしつつある。
- ※ A2-84b 群は芋田地区から国道338号線の西側までが遊動域、主には瀬野地区、新井田地区、寄浪地区、蛸田地区、牛の首岬周辺の県道沿いである。個体数が16頭だが子ザルや

ワカモノがオスばかりで、性の偏りがある。今後、♂グループとして離れることが予測される。

- ※ A2-84c 群は、オトナ♀が出産、その親子と 7 頭のオスで構成されている。オスとメスとの群れ内でのバランスが悪く、一時的なものでゆくゆくはオスが群れから離れていくことが推測される。個体数が少なく、群れの存続も疑われ、今後の観察で群れの消滅になる可能性もある。寄浪地区から蛸田地区の海岸線で観察することが多いが、電波発信機装着個体もいなく、夏季ならびに冬季調査期間中に確認することは極めて難しい。
- ※ A2-85 群は、前年度までは分裂の可能性が高い状況だったが、大型檻での捕獲が進み、25 頭まで個体数が減少している。以前は広い遊動域で宿野部地区まで東進していたが、今後は東進するスピードは緩むものと推測できる。また、隣接する A2-84a 群も個体数が減少していることから、両群の接触機会も減ってくるものと推測できる。
- ※ A87 - A 群は、九艘泊・芋田地区を中心に瀬野林道までを主な遊動域としている。瀬野川流域を利用する機会が多くなっている。調査・研究が進んでいる群れで今後の保護管理やサルとの共生においても貴重な群れといえる。
- ※ A87 - B 群は、九艘泊・芋田地区から中細間・穴間・青石と、南北に広く遊動している。A87-A 群や O 群関連の群れと遊動域が包含している。
- ※ O1 - A 群は、電波発信機が装着しているため、群れの同定が可能な群れである。今後の調査で遊動域が確定してくるだろう。細間林道、細間牧場を主な遊動域としているが、七引地区、滝山地区、片貝地区、源藤城地区の国道 338 号の西側で出沒することが多い。滝山地区、片貝地区や源藤城地区の電気柵の畑に出沒している。今後の動向を注視しなければならないし、畑から追上げるなどの対策が急がれる群れである。
- ※ O1 - B 群は、電波発信機がついておらず実態をつかむのが難しい群れである。O1 - A 群よりも西側、西海岸線側に分布している。人との接触は少なく、人と出会うと逃げる群れである。
- ※ O2 - A 群は国道 338 号線海峡ラインの大荒川林道入口あたりを北限とし、武士泊林道、海峡ラインのゲート入口、男川上流部(板家戸沢より上流)まで、東西南北に広く遊動している。鼻先に傷がある特徴のあるオトナ♂がいるが、電波発信機が未装着な群れであり、なかなか実態をつかむのが難しい。

- ※ O2-B 群は、田の頭地区、七引地区、滝山地区、源藤城地区と集落近くから国道 338 号線海峽ラインの中流部までを主なる遊動域としている。源藤城地区や滝山地区の畑への出沒も多くなり、今後追い上げなどの対策が急務となっている。個体数が多く、今後、分裂の可能性が高い群れでもある。電波発信機が未装着なので、実態をつかむのが難しい。
- ※ 男川群は、今回の調査で男川 A 群と男川 B 群とした。今回までここ数年、男川並びに宿野部川上流部で二つの群れの確認が続いていたため今調査から二つの群れに分裂していると判定した。男川 A 群は、12 頭を目視したが、群れの移動中であったため、全容はつかめていない。Baby の観察もなく、もう少し個体数はいるものと思われる。男川の中流域から宿野部川の上流域の西又沢林道、金八沢林道あたりまでを遊動域としている。
- ※ 男川 B 群は、国道 338 号線海峽ラインに出沒することもあり、O2-A 群と混同されることもある。主な遊動域は、男川の松山沢より西側上流部の男川流域である。人との接触は国道 338 号で車での接触があるだけで人を見ると逃げるサルである。男川 A 群と同様に畑への出沒は皆無、山の中の群れである。
- ※ 川内川流域(本流)に分布する M2-B 群は、2016 年には 65 頭以上いたのがここ数年、確認する個体数が減っていた。おそらく分裂していることを示唆していたが、今回の調査で 3 群に分かれていることが確認できた。ただ、同時観察の基本、群れの同定が不確実なため確実に分裂とは言い切れず、今回は 3 つの群れをその 1、その 2、その 3 として記載する。その 3 には電波発信機の装着個体がいるが、その 1、その 2 にはいない。M2-B 群その 1 は、川内-佐井線カモシカラインの工事現場周辺からゲートあたりを遊動する 12 頭ぐらいの群れである。M2-B 群その 2 は、川内-佐井線カモシカラインの畑集落から湯の川集落から北の地域を主な遊動域としていると推測される。ただ、その 1 とその 2 との関係が今一つ判明できていない。M2-B 群その 3 は、電波発信機装着個体がいる群れであるが、捕獲地点が目名林道であったことから M2-B 群関連とした。川内-佐井線カモシカラインの大戸ヶ淵小公園右岸で観察、かなり南北に広く遊動している。
- ※ 湯の小川沢の群れは、遊動域としては、新助林道・湯の小川林道を中心に分布し、30 頭までの群れと推測している。今回は確認できなかった。
- ※ 安部城北の群れは、川内-佐井線カモシカラインの川内川発電所周辺で 57 頭を目視することができた。60 頭を越えているだろうから、いつ分裂してもおかしくない群れである。また、川内町のブドウ園に最も近い群れであり、動向を知るためにも電波発信機の装着が望まれる。

- ※ I2-A1 群、I2-A2 群は、昨年の調査結果でこの二群を取り違えて記載していたため、今回の報告で修正する。I2-A1 群(キノップ A 群)は、近年の多数捕獲で個体数は減少しているが、遊動域が風間浦村下風呂地区まで広がっており、調査期間中に確認できない状況が続いている。テレメ装着個体がないため、群れの動向を把握するのが難しくなっている。I2-A2 群(キノップ B 群)は、二枚橋小学校周辺から大畑道の畑、八幡湯坂地区の集落周辺、木野部峠で目撃されることが多い。今回も二枚橋小学校奥の畑で補足調査時に 9 頭フルカウント確認した。新設されたバイパス道路ののり面の土留め用の植物を採食する機会が多くなり、今後群れが頻繁に出現することが予測できる。電波発信機が装着されていないが、今後もよく目につく群れとなるだろう。
- ※ IC - 2 群は、未確認であった。三衛門林道、佐藤ヶ平林道周辺を生息域としていると予測しているが、近年十分な調査ができていない。
- ※ Ka 群は奥薬研から釜ノ沢林道周辺が主な遊動域。今回、Ka 群をウグイ滝林道の碎石場南で 27 頭+ $\alpha$ の足跡で確認した。本日分のもの、かなり広い範囲を渡っていた。重複は少なく、あと Baby の数ぐらいと思われる。
- ※ Ko - A1 群(イロハ A 群)と Ko - A2 群(イロハ B 群)は、白色のテレメを装着した老♀(イロハ)のいる Ko - A1 群(イロハ A 群)が薬研橋から薬研温泉郷にかけて大畑川の兩岸を主な遊動域としている。今回、釜の沢林道のゼンマイ橋周辺で 45 頭+ $\alpha$ を目視、3 頭の Baby を観察している。比較的馴れして、ある程度の距離を置くと十分に観察することが出来る。また、Ko - A2 群(イロハ B 群)は、ここ数年群れの分裂が考えられていたが、今回の調査でも明らかに二つの群れに分かれていることが確認され、Ko - A2-a 群 (イロハ B-1 群) と Ko - A2-b 群 (イロハ B-2 群) に分裂したことを報告する。Ko - A2-a 群 (イロハ B-1 群) は、電波発信機装着個体がいる群れでその動向を比較的追える群れである。今回 43 頭を目視したがまだまだいそう。また、電波を発信しているのかどうかは不明であるが、電波発信機を装着した老♀がかなり衰弱していた。Ko - A2-b 群 (イロハ B-2 群) は、川代地区の国道沿いで 18 頭を目視、Baby 2 頭を確認した。+ $\alpha$ としたがほとんどフルカウントに近い状況。両群とも集落近くを遊動していることから猿害対策が最も必要な群れともいえる。
- ※ Ko - B1 群(ハイロ A 群)は、A♀に黄色の電波発信機が装着しているが電波の発信はしていない。今回このサルの確認はとれていない。薬研橋から小目名地区までの大畑川左岸地域で観察する機会が多い。葉色沢のサケマス孵化場近くで 25 頭+ $\alpha$ の足跡で確認した。
- ※ Ko - B2 群 (ハイロ B 群) は薬研橋から小目名地区、大畑町湯坂、大畑道と海岸線近くま

でを遊動域としている。今回の調査では、薬研橋で 14 頭 +  $\alpha$ 、目視 8 頭、足跡で 6 頭を確認した。電波発信機はついておらず群れの発見が難しい。

- ※ I3 - A 群は、大畑川の左岸地域、薬研 - 易国間線の尾根近くから薬研 - 佐井線の道路までを主な遊動域としている。今回の調査では、薬研 - 佐井線の道路の上獅子沢出合いで道路を北から南へ横断する 57 頭 +  $\alpha$  の昨日分の足跡で確認できた。これまでの調査で 60 頭以上の個体数でいることから分裂の可能性が高い群れである。
- ※ M2 - A 群関連の 4 つの群れは、それぞれの群れに個体識別できている個体や電波発信機装着個体がないことから、群れの同定は、個体数と目視した地点、足跡の観察地点で群れを同定している。M2 - A1 群(弥一郎沢の群れ)は弥一郎沢の中流部で東から西へ移動する本日分の足跡 45 頭 +  $\alpha$  の足跡で確認できた。足跡の重なりからもう少しはいる模様。M2 - A2 群(上沢の群れ)は、上沢中流部で南から北へ移動する群れを目視、すでに移動していたサルもいたことで足跡も加味し、48 頭を確認した。M2 - A3 群(囲井沢の群れ)は、囲井沢の中に二つの群れの足跡を観察した。足跡の繋がりを確認できず、M2 - A3 群(囲井沢の群れ)その 1 と M2 - A3 群(囲井沢の群れ)その 2 とした。一時的にサブグループングしているのかもしれない。M2 - A4 群(三太郎沢の群れ)は、三太郎沢入口の南で 17 頭 +  $\alpha$  の足跡を確認した。積雪の状況もよく調査結果に成果があった。大畑川の源流域は尾根を越えると、川内町の川内開拓地や新助林道に続く、川内町の佐井 - 川内線(カモシカライン)に出没することも十分可能で、川内地区の調査とも併せて考慮する必要がある。
- ※ S1 - A 群ならびに S1 - B 群は宮後牧野から名古屋牧野、関根地区、高梨地区、恐山街道辺りを遊動している。今回、S1 - A 群は栴山地区で 31 頭 +  $\alpha$  の足跡で確認した。S1 - B 群は今回の調査では確認できなかった。両群とも宮後牧野から名古屋牧野、集落周辺を遊動することから猿害対策の必要性がある。
- ※ S2 群(恐山の群れ)は、釜ノ沢林道や恐山街道を遊動域としている。今回の調査では、釜の沢林道の中流部で 24 頭 +  $\alpha$  の足跡で確認できた。
- ※ 不明群①は、右衛門四郎沢終点で確認した 22 頭 +  $\alpha$  の 2~3 日前の足跡。隣接する群れで可能性のある群れは M2 - A1 群(弥一郎沢の群れ)が考えられるが、弥一郎沢林道を西から東へ横断した足跡がないことから不明群とした。
- ※ 不明群②は、長次郎林道での 18 頭 +  $\alpha$  の足跡。12 月 23 日の確認で前日の足跡との報告だった。前日の 22 日に M2 - A2 群(上沢の群れ)を上沢中流部で南から北へ移動する群れ

を目視している。可能性としては M2-A2 群(上沢の群れ)だろうが、足跡の繋がり等で不明群と判断した。

[ ハナレザル・オスグループ・小グループ ]

- ・2020年12月22日 囲井沢林道分岐近くで1頭分の足跡。林道を行き来していた。
- ・2020年12月24日 ウグイ滝林道 朝比奈大橋奥 200m地点1頭分の足跡。本日分左岸より下りてきて林道を1.0kmほど北へ移動し右岸方向へ移動。

むつ市管内のニホンザル

2020年度調査結果

[ 2019年度調査結果 ]

《 脇野沢地区 》

群れ数	12群	[11群]
個体数	352頭+ $\alpha$ (内50B)	[377頭+ $\alpha$ (内63B)]

※ むつ市脇野沢七引地区の野猿公苑のサル(A1群)は含まない。

《 川内地区 》

群れ数	3群	[3群]
個体数	116頭+ $\alpha$ (内11B)	[135頭+ $\alpha$ (内12B)]

《 大畑・薬研地区 》

群れ数	17群	[16群]
個体数	446頭+ $\alpha$ (内15B)	[233頭+ $\alpha$ (内10B)]

《 むつ市全域 》

群れ数	32群	[30群]
個体数	914頭+ $\alpha$ (76B)	[745頭+ $\alpha$ (内85B)]

脇野沢地区は、コロナウィルス感染防止で人を集めての一斉調査はできなかったが、各群れともかなり精度の高い結果が得られた。群れ数に関しては、男川の群れが分裂していることを確認し、1群増の結果となった。また、A2-84c群が消滅しているのでは、とのことであったがオスとメスの構成のバランスが悪いものの細々と群れを維持していることが確認できた。個

体数の減少は、A2-85 群の捕獲が進んだ結果だろう。各群れ共に直接観察ができ、Baby の発見率は高かったが、Baby の数が減少しているのは民家周辺の捕獲対象群の捕獲の結果であろう。捕獲が進む群れは、個体数はいるものの年齢や性といった群れの構成が悪くなっている。

川内地区では、川内川流域に今まで3つの群れが確認されていたが、M2 - B 群が3つに分裂している可能性が高く、川内川流域には4~5の群れが生息していると考えられる。ただ、一斉調査での群れの確認が取れていないため、現状としてはこれまで通りの3群としておく。個体数に関しては、2019年度の結果よりも減少しているが、M2 - B 群その2とした群れの個体数がもう少しいることと安部城北の群れももう少しいることによる。湯野小川群の確認がとれなかったが、川内川流域には150頭ぐらいのサルが生息しているものと推測できる。また、安部城北の群れも分裂する可能性があり、今後の調査の重点項目としたい。安部城北の群れは下北ワインのワイナリーに最も近い群れであり、その動向に注視する必要がある。電波発信機装着などの対応が望まれる。M2 - B 群関連の群れも集落周辺に出没する機会が増えている。追い上げ等の対応が望まれる。

大畑・薬研地区の調査は、積雪、天候と申し分なかった。薬研奥にいるM2 - A 群関連の4つの群れが十分に観察できた。個体数の増加はその結果が反映されている。奥薬研のゲートより上流部のサルの状況はかなり精度の高い結果が得られた。また、大畑川中流域から海岸線に生息する群れは、Ko - A2 群(イロハ B 群)が分裂していることを確認した。2~3年前より二つの群れに分裂していると推測していたが、今回の調査で分裂と判断した。その結果群れ数が1つ増加したことになる。これまでの調査結果から、薬研・大畑地区の特徴としては、奥薬研のゲートよりも上流部の山奥の群れでは、それほど個体数の増加は見られない。一方、民家や牧野周辺を遊動域とする海のサルは、個体数も増加、遊動域も広く、そして、分裂が進む傾向があり、民家周辺や畑への出没の機会も多く、猿害対策が急務な群れである。

むつ市全体では、群れの数に2群増加し32群という結果となった。個体数は、2019年度よりも約170頭増加した914頭との結果となった。薬研奥のM2 - A 群関連の4つの群れを精査できたことの結果である。通常なかなか確認できない群れであることから2020年度の調査結果はかなり精度の高い結果を得ることができたと確信している。

むつ市全体としては、確認できなかった群れやハナレザルも含め1000頭ぐらいは生息していると推測される。今後も、より正確なニホンザルの生息実態に迫りたい。

下北半島のサル

2020年度(令和2年度)調査報告書

発行者 NPO法人

ニホンザル・フィールドステーション

発行日 2021年5月10日

編集・印刷 松岡史朗

☎039-5326

青森県むつ市脇野沢桂沢90-1

TEL・FAX 0175(44)2620